

地域社会研究所の社会実験

——「コミュニティ」の調査研究活動の検討を通じて——

東京大学 渡邊 隼

1 目的

本報告の目的は、かつて多くの社会学者がたずさわった地域社会研究所の調査研究活動の検討を通じて、「コミュニティ」で行なわれた「社会実験」の内実がいかなるものであったのかを明らかにすることである。近年、大規模災害や少子高齢化などの問題を背景として、あらためてコミュニティに注目が集まるとともに、戦後日本の政府や自治体で実施されたコミュニティ政策にかんする検証が始まっている。他方で、政府や自治体の構想、政策に先んじて「コミュニティ」を理念として掲げ、福武直をはじめとする多くの社会学者が関与した地域社会研究所の調査研究活動は、いわば「社会実験」といってよいほど大規模なものであったにもかかわらず、現在では忘却されている。本報告では、「コミュニティ」という理念のもとで行なわれた地域社会研究所の「社会実験」の内実を詳らかにする。

2 方法

地域社会研究所の設立は、第一生命相互会社（当時）の神奈川県大井町への移転計画と関連している。機械化にともなう業務内容の変化と急激な都市化にともなう社会問題の噴出を背景として、第一生命は東京・日比谷の本社機能の大部分を大井町に新設する大井本社へ移転することを発表し（1963年）、営業を開始した（1968年）。大井本社への移転の前後には、福武直を中心とする社会学者のグループ、日笠端を中心とする都市計画研究者のグループが、大井町、第一生命大井本社を対象として、大規模な調査研究を実施した（福武編 1967; 日笠編 1969; 福武編 1977; 福武・蓮見編 1979）。これらの調査研究の検討を通じて、大井町を舞台にした「コミュニティ」の「社会実験」がいかなるものであったのかを検討する。

3 結果

地域社会研究所は、1960年代当時の日本社会で一般的に普及していなかった「コミュニティ」という理念を日本国民にたいして啓発・教育することを目的として、『コミュニティ』誌を刊行していた（地域社会研究所 1964）。他方で、大井町と大井本社を舞台にした「社会実験」の場で「コミュニティ」の調査研究活動にたずさわった社会学者、都市計画研究者においては、「コミュニティ」の理念は必ずしも前景化されていなかったことが確認された。

4 結論

地域社会研究所は「コミュニティ」を理念として掲げていた一方で、社会学者や都市計画研究者が関わった「社会実験」の局面では、理念としての「コミュニティ」が必ずしも援用されていなかった。この事実は、1970年代の「コミュニティ・ブーム」をあらためて検討するうえでも示唆を与えうるであろう。

文献

地域社会研究所, 1964, 『コミュニティ』1.

福武直, 1983, 「日本の地域社会とコミュニティ概念」地域社会研究所編『コミュニティ——20周年記念文集』.

福武直編, 1967, 『大井町——地域社会の構造と展開』東京大学出版会.

——, 1977, 『農山村社会と地域開発——神奈川県大井町相和地区』東京大学出版会.

福武直・蓮見音彦編, 1979, 『企業進出と地域社会——第一生命本社移転後の大井町の展開』東京大学出版会.

日笠端編, 1969, 『大井町開発基本計画』地域社会研究所.